
極限

玉川隊長

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
極限

【Nコード】
N0270A

【作者名】
玉川隊長

【あらすじ】
広大な砂漠に取り残された男が、死の極致に追いやられてそこから何かをみつけるというお話。

腹が減っていた。

無限に広がる砂漠の真ん中で食料も水も尽きてから一体どのくらいたったのだろう。

時間を感じられないほど思考回路が働かない状態だ。

空腹感も薄れ、今はただ水が欲しい。

死ぬ程辛くても、どんなに消耗しても。

決してあきらめてはならない、もしあきらめたとしたら干からびてミイラになってしまう、

「死ぬ」

ということだ。

いくら空腹と渴きがつきまるとって苦しかろうが、疲労がたまるとそれでも眠る。

しかし、すぐに悪夢に襲われて跳び起きてしまう。

銀色の海から銀色の女が浮かび上がる夢。

何か気持ち悪くてすぐに夢から覚める。

歩いても、歩いても緑の大地は見えない、飢えと渴きをひきずりながら。

歩き疲れたら横になって眠り悪夢に呼び起こされて、また歩きだす。

これを、何回もくり返して少しずつ果てがあるかも分からない砂漠を進んでいく。

そして、ついに足が動かなくなり俺はあきらめてしまった。

もうミイラにでもなんにでもしてくれ、俺は疲れた休ませてくれ。砂のベッドに倒れた俺に太陽が容赦なく照りつけるが構わず眠る。

もう起きることは無い、おやすみ……。

もう何も考えたくなかった。

いや、もう何も考えれなかった。

……。もう起きたくなかったのに、また悪夢が俺を呼び起こす。まるで、俺に生きてほしいとっているようだ。やっぱり人間の体は生きるためにあるもんなんだな。だってこんなに死ぬのを拒んでいる、どんなに頭で楽に死のうと思っても、身体は必死に生きようとする……。まったく、しょうがねえなあ。そんなに生きたいか俺の身体。わかったよもう少し頑張ってみるよ、おまえが満足するまでつきあってやるから。だから……。絶対生き延びろよ俺！動かなくなっていた足は休んだせいかまだ少しは動きそうだ。いつまでもつか分からないが生きたいと思った。最期の一瞬まで生をかみしめたいと思った。

(後書き)

本能のままに書きました。内容がイカれてるのと文章力の無さに吐き気を覚えたかもしれないですが、それはこれから精進しようと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0270a/>

極限

2011年1月31日10時19分発行